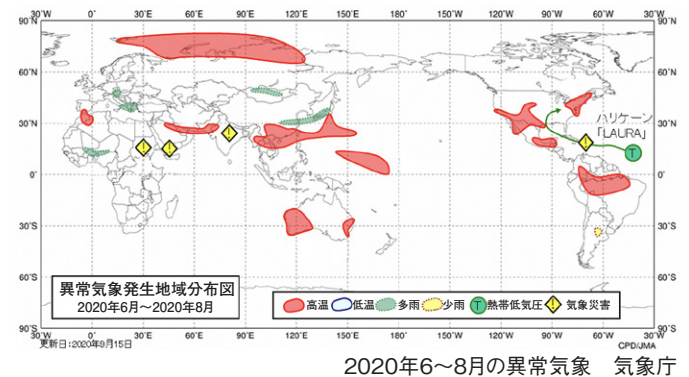


北半球最も暑い夏

米海洋大気局(NOAA)は、今年の北半球の夏(6~8月)は1880年以降の観測史上最も暑い夏だったと発表しました。南半球を含めた地球全体でも、この期間は2016年と18年に次いで3番目に暑かったということです。アジア、オーストラリア、北米などで記録的な暑さとなり、米西部では9月に入っても猛暑と乾燥で山火事被害が拡大しています。

日本でも浜松市中区で8月17日、41.1度を記録し、国内の歴代1位の埼玉県熊谷市(2018年7月23日)に並びました。

また「数十年に一度」という異常気象も毎年のように起きています。この夏も、東北・中部・九州地方で大きな被害をもたらした「令和2年7月豪雨」や、9月6~7日にかけて、奄美地方から九州に接近した台風10号は、大型で非常に強い勢力に発達し、上陸こそしなかったものの過去最大級ともいわれた暴風雨が、九州を中心に西日本を襲いました。



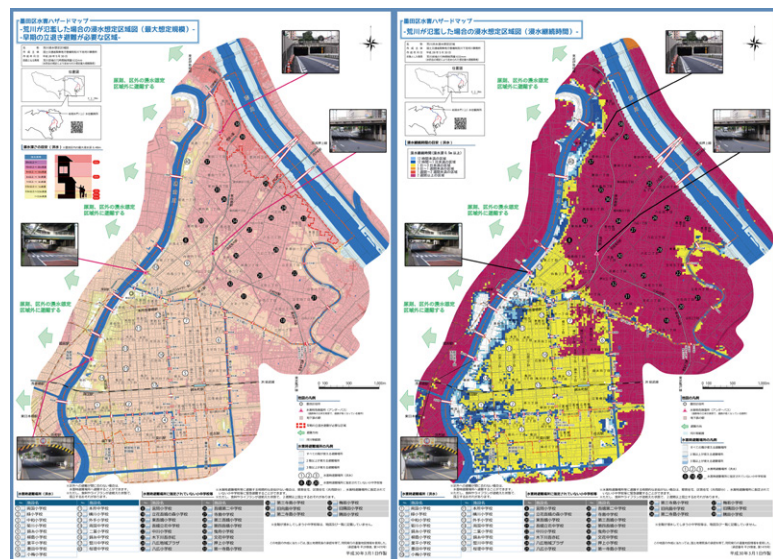
台風シーズン

死者・行方不明者が3千人を超えた室戸台風(1934年)など、戦後1950年代までは、一度の台風で数千人が亡くなることも珍しくなかったのですが、最大の被害をもたらした伊勢湾台風(1959年)以降被害は減少してきています。

近年、東京23区の水害で多いのは、圧倒的に内水氾濫で、都市の排水能力を超えたときに発生しますが、局地的かつ短時間に雨が降るゲリラ豪雨の増加で頻発しています。一方で平成時代、東京

23区で洪水被害(河川の氾濫)があったのは数える程度です。これは東京近郊を流れる主要河川で行われている治水対策によるもので、堤防の強化や拡幅などの他、増水した川の水を取り込み排水する水路が整備され、被害を食い止めています。

ただ昨年10月の台風19号による記録的な大雨の際、江東5区では目立った被害は報告されていないものの、実際はぎりぎり持ちこたえられただけという見方もあります。荒川、江戸川流域にある江東5区で堤防が決壊し、大規模な水害が起きたら、ほぼ全域が浸水し、域内の250万人は域外への避難が必要とされています。さらに水がひくまでに2週間を要するとも言われていて、たとえ垂直避難しても、その間どのように耐えるか課題になっています。



墨田区水害ハザードマップ。

墨田区ホームページに各種ハザードマップや防災マップが掲示されています。いざという時のため確認しておきましょう。

JS環境委員会短信

Go To キャンペーンなど、落ち込んだ経済再生のための制限緩和が進んでいますが、引き続き感染対策にしっかり取り組んでいきましょう。

本社 環境委員会メンバー

委員長：下鳥治

委員：小井土昌弘 河野純一 庄司亜佐子

曲師里奈 森智史

